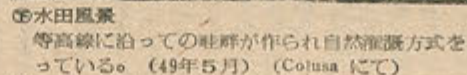
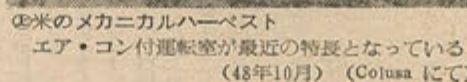


米国・加州大学に学んで

農業工学科助教授 白岩 隆己

まず初めにこのような慶喜様公を尊び下さいました日本大学当局並びに小堀農獸医学部長はじめ関係者各位に対し、心から厚く感謝の意を表します。



については次の通りである。

日本	米国（加州）
面積	約三七万平方呎
人口	約四二万平方呎
人口	約一億七〇〇〇万人
人口密度	約一千六〇〇万人
	約二七〇人／平方呎
	約三八人／平方呎

カリフォルニア大学は、その本部をサンフランシスコ湾のバークレーに置き、現在では、Berkeley, Davis, Irvine, Los Angeles, Riverside,

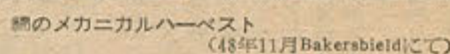
COMPARISON OF FARM WAGE RATES,
U. S. AND CALIFORNIA
October 8-14 (1972)

Farm Wage Rates	U.S.	Calif.
1/		
All hired Workers-----	\$1.97	2.44
Type of Payment:		
Paid by Piece-rate-----	2.37	2.91
Paid by Hour, Day, Week, Mo.-----	1.92	2.36
Paid by Hour Only-----	1.90	2.22
Receiving Cash Wages Only-----	2.10	2.47
Paid by Hour Receiving Cash Wages only-----	1.97	2.22
Type of Work Performed:		
Field and Livestock workers-----	1.92	2.33
Packinghouse workers (fruit and vegetable)-----	1.93	2.31
Machine Operators-----	1.84	2.47
Maintenance & Bookkeeping-----	2.29	2.62
Supervisors-----	3.26	3.51
Other Agricultural workers-----	1.86	2.13

1/ Average of wage rates for all methods of payment on an hourly basis. (Source: California Crop and Livestock Reporting Service.)

San Diego, San Francisco, Santa Barbara, Santa Cruz, の九つのキャンパスからなっている一大総合大学である。

私は、その一つであるデービス・キャンパスにおいて Dr. R. M. Carlson に関事し、主として土壌物理と水分関係、併して土壌改良の化学的部分とよの土壌改良学についての基礎的、応用的研究をすると共に、加州農業の実態と立地条件を質問し、私の専門である土壌改良事業について広く現地見學すると共に、大学の研究室では土壌分析を主とした解析



カリーフォルニア州はわが国を上まわる、世界でも有数な農業立国として知られており、米、牛肉及ミルクの畜産物、グレイプ、オレンジなどの果樹類、レ

イ農産品も大割化と高性能化に如く、オペレーターのエン・コ化が進められ、最近の農業機械は身長となっている。これは労働者も一人の人間として人格が認められ、機械化の中にも人間尊厳の尊重が生かされている証左であろう。

数多く写真の中から、ここでは特に水田稲作とコンバインによる米のカカルハーベスタの写真を加えて稲作の収穫機についての写真を紹介いたします。

わが国においても、水の価格は

の生産性は相対的に低下しては決して試みものである。

また彼らは總して法律をよく守る。市民生活を送っている。例へば車の走行速度をみると、現在五六P・H・Mから五五P・H・Mに下ったが、ほとんどの車輛は制限速度を守っているし、走行マナーもまたよく、走行レーンの設置も交差点の附近は、まず見られないのである。仮りに開港したとしても走っているレーンを密着せず改めて出直して来るという風合であり、道徳と法律をよく守る

技術の一端を指導するところまで
達した。

わが国における所界の研究組
織、実験、調査機械、解析装置な
ど、決して米国に優ることも多
くはないと思いましたが、彼ら
の学問・研究に対する態度、熱
意、物の考え方、実験に当てる
充分な資料収集などの準備、ま
た実験遂行にあたってのより一
層進んだ日本の比ではなほ充分
發展に達するものでないと思ひ
ます。

タス、トマ
ト、イチ
ゴ、馬れいしなどの野菜類、キ
ャントロフ、メロンなどの何を
栽培しても、思ふに及ばぬ土の
上に、整備された研究機関と大型
化された高性能な機械力をも
つて、世界の主要農業国となっ
てゐるのである。

これを支えているのがU.C.
D (University of Califor-
nia, Davis campus) であ
り、U.C.D.と直結してゐる
Agricultural Extension
であり、大学入便の二ツであ
る。

大分高つくつてゐるが、カリ
フォルニアの場合、一九七三年度
において二エーカー当り二フィ
ートの容積の水代が、水源地との距
離にもよるが安い所で二〇ドル
高い所で四〇ドルとの事であつ
た。夏明に降雨のない土耕耕作
に水利施設は非地に重要であり、
ここに農業土木事業の必要性と重
要性が論ぜられる所である。

私はカリフォルニアのCor-
ning, Colusa, Sacra-
mento, Stockton, Mod-
esto, Fresno, Bakersfield
などの中央平野部のほか、

習慣が身についているのが印象的であつた。

紙報の關係で充分記述するところが出来なかつたが、折角の機会ですから紙面をかりて建議を述べた次第です。スライド、プリント写真等たくさん撮つて贈りましたので、また機会をみて御紹介したいと思ふとおります。

終りに校友諸兄並びに関係者各位の益々御多幸を祈念して慶事といたします。

校友会入会金値上げ

長野実

日本、今から一ヶ年の船外出張を命ぜられたわたしは、約四月・ヨーロッパ十三ヶ国を回ったのち、カリフォルニア大学デビスに約八月滞在。その間南米の三つの国を訪問し、この三月十日帰郷していった。わたしの足は、彼

で連絡してあった通り朝六時半に予定の海軍に押入れ出くわていたのだが、ロンドンからのすべりの到着便の名前を調べても、わたしの名前がなかったので家に残っていた。わたしの足は、彼

がわかり、その比率の高さに驚きもし、力強くも感じた。その後二週間たって、ある食肉関係会社の幹部の来訪があり、一営業部長氏も焼肉の士であった。彼の積極的な行動は、米人教授をなせた。

の学生がいろいろという話をするようになった。ヨーロッパでも同じ話題が出たが、とても、金持ちで八万人いゝやうな、一学科数千人いるところを想像できなかった。むしろ驚きののは、うちよしたものであった。ところが、カリフォルニア大学は九つのキャンパスに十二万人以上の学生がいるので、総数については、比較的容易に「日本一の大学なので……」と隠さることができた。つくづく羨望するのは、「教は力である」といふことが実現した。リオン・シェイロは「一鞭の男となつてゐた。まさに日本生れの西郷隆盛である。剣舞や詩をうなり、アメリカ批判もでき、大らかな大和男子。親しくなつた北大の教授だから、「日本の卒業生はうらやましい」といわれ、アメリカからは好感もてる日本青年との評価を受けた。わたしが西部の牛をみまふことができたのは彼の推薦、今はシドニア大学で勉強中である。

今年の三月、念願のワシントンに訪れた。リオン・シェイロは「ワシントンに生まれて来い」といふ人がある。十七年前移住し、二重も三重もあつた同期の小森茂氏（30年度・獣医）である。多忙の折にもかかわらず、余計お世話になった。彼のバスターディと、日伯両国に対する熱美な理想は、散見した。まことに彼は、格別の南十字星である。彼は在伯の日大校友の中心人物じつと活躍し、二月二十四日の公会合をもつべく準備中である。私の訪伯日数がもう少しあれば……残念で

て赴けた。先生の温厚には何とも言葉がない。拓殖学科の宮崎・後藤・中村の諸先生が相次いで行かれ、林学科の加藤先生も訪伯された由。他学部の方も何人か行かれたはず……のにきわめてあった。わたしは、ブラジル、ペルー、アルゼンチン、カリフォルニア、ハワイなどの日本人の活躍地を訪問できたが、中でもブラジルは将来に向って最も有望な国であることを知った。校友諸氏の推薦を祈るとともに若い学生は大いに感服

いふよう。

ここで大学人の使命について一すふれておくと、大きく分けて三つあり、第一は研究業績を著し学会とか学会誌を通じて発表すること、第二は学生に対しての講義をなす義務があること、第三は前述の通り社会に対するサービスとして大学人の研究が栽培農家によく理解され適用され、そして、学理と応用の一環性が車の両輪のように相乗効果となってあらわれるのであり、この点が重要なポイント

Santa Cruz, San Jose, San Francisco Rapa などの地域をも教団訪問し見学致しましたが、まだ未開発で、農産経営のためには、土地改良事業を行わねばならない広大な面積の土地があり、加州における「農業生産」の潜在能力の大きさを目のあたりにみた感が致します。

加州農業の特徴は、思うに農作物の特殊な農業の立地条件を充分に考慮した適地作の順理を美によく心得て実行しているので、土地

十七日に南国旅客で開航され、まず、名産作製の毛織、九五八万余円が承認された。ついで入会金二千五百円を五千元に値上げする案が事務局より提出され、可決された。さらに本部校友会常任委員の欠員補充が議せられ、股楽副会長が選出された。また、前常任委員の嶋田幸治氏(敬称)を感勞する会を有喜順館とする御案がなされた。

はじめての校舎の出会いは、七月七日ロマン・ロッシェルのある淋しい空海で、佐々木敏君（46年・重慶）との「遠慮いの再会」だった。飛行機は約二時間遅れ、空港も通っていたと、それにわたしのメモの電話通話が読んになっていたからであった。彼は電報の、校友の体面がグッと伝わってきた。彼はある有名なケンネルの大黒柱にして米を飛び廻りながら、カプフォルテナ大学大学院の入学資格をとった小柄な男である。その多忙な日課を云いて、南部カプフォルテナを案内してもらったと生大愛あがりらしく思った。その他でも、農業関係、市揚関係、学会などのグループの来訪があり、太い校友の一人二人はいるものだった。農學士長の白岩さんもデューンにいらしたし、会えなかった校友も何人かカプフォルテナにいた。わたしの引受け教授は「あなたの大先輩は何人くらい

アにもとつて来た。彼は北方フ
ォルニアの牧場で一年半のカウボ
ーイの修業の後、モデストの大学
で肉牛生産を学び、更に州立フレ
ズノ大学の大学時代に入学した。あ
つた。彼は形而上のデナガラハ
ットにブツ發、しゃべつては
メリカ人を圧倒し、肉牛に關して
は、デレ小話「單一の青」を
地で行くところ、週刊紙などで
語彙をなげぬ。幾回か一年定
らずの彼は、現地人のあつた
まいて、ボルトガル語をあまり
ながら、サンパウロを根據地と
なブルをかついてゐる。真
になくまじい發である。彼をフ
の他、いくつかの訪問者で「巨大
出ださ」にいますと、し
ばしば教へられた。現在、千數名
とか。

昨年来のブルは、日ム
だったそうである。まず、国文学
（歐戰時・教養）の提唱、勇先生
がサンパウロ大学の國文教授に

関心を深める時勢であると感じた。また海外での校友のつながりをわすれずめることが望ましいと思った。個人的には種々な感懷はあろう。しかし「血は本よりも濃い」はすぐである。

一九七四年の四月よりは法律によつて最低賃金が一時三三二下りよつて最低賃金が一時三三二下りを決定されなよを附記して参考に供したい。

このように労働の上昇に伴い、一方では労働力不足という現象もみられ、省力経営にて産業の機械化は、益々自動化の傾向をたど

日本大学農獣医学部校友会名簿作成予算			
1、収入の部			
学部校友会名簿作成費			2,230,000
校友会会分相引金(各分会100,000)			1,000,000
本部校友会助成金			100,000
農獣医学部名簿買上金			3,000,000
広告料及名簿売上金			3,255,500
			9,585,500
2、支出の部			
名簿	3,000部		9,585,500
学部校友会入会金値上げ資料			
1、入会金			
	現在		値上案
入会金	2,500		5,000
学部校友会	300		2,000
各分会	2,200		3,000
2、入会金値上げ後の学部校友会予算			
項	目	49年度 (現在)	50年度 (値上げ後)
収入	入会金	690,000	4,000,000
	会分相引金	150,000	—
	会分助成金	1,000,000	500,000
	計常	1,840,000	4,500,000
	経費	600,000	600,000
	名簿買上金	230,000	300,000
支出	名簿代	1,270,000	2,600,000
	計	—	1,000,000
		2,100,000	4,500,000